

図書館だより

埼玉県立図書館

35号



スプリング・エフェメラル

春は名のみ。褐色の風景の中に、満天の星のように咲くコバルト・ブルーの草花を見つけた。オオイヌノフグリ (*Veronica persica*)。

植物学者はこの可憐な花に何という不粋な和名をつけたことか。ポケットから図鑑を取り出して見る。何と、牧野富太郎博士の命名である。日本植物学の権威、牧野博士といえども、命名当時は弱冠二十五歳の駆け出しの研究者。一方、オオイヌノフグリも上陸したばかりの「新参者」であった。

今ではどこにもある雑草だが、文明開化とともに広がった「青い眼」の帰化植物である。芭蕉も「茶も詠んでいないのが道理である。」

他の花に先がけて、春の到来を告げるように咲く花を、ヨーロッパでは「スプリング・エフェメラル」と呼ぶのだそうだ。図鑑とルーペをポケットに、小さい春を探しに行くには良い季節が来たようだ。



子どもと読書

田口 真一郎

昨年の十一月頃のある晩のこと、東京に住む次女の家の、小学校二年生の孫娘から電話がかかって来た。ひどくうれしそうな、弾んだ声である。きくと、読書感想文コンクールで入選して、今朝、校長先生から東京都の表彰状を頂いたのだという。次女の話によると、感想文は、『わすれられないおくりもの』を読んで、という題で、本の中味は、ある山の中に、年老いた穴熊が住んでいたが、何でもよく知っていて、山の動物たちに、親切にいろいろな事を教えてくれたので、親のように慕われていたが、やがて穴熊は死んでしまう。みんなは、声をあげて泣き悲しみ、穴熊のおじいさんが自分たちに残してくれた、忘れられない思い出を、つぎつぎに話し出す。もぐらは鉄の上手な使い方を、かえるはスケートのすべり方を、また、狐はネクタイの結び方を……。動物たちは、穴熊のおじいさんが、みんなが幸せに暮らすために必要な知恵や、物の大切さや、命の大切さなど、たくさんのおくりものを残してくれたことに気づき、心から感謝する……。とおよ

そんな筋だったという。二年生の孫娘は、感想文のなかで、人間は誰でも、いつかは死ななければならぬこと、そして、お母さんも、前に「お父さんも、お母さんも、いつかは死ぬときが来るのよ」といったこと、しかし、その時は、死ぬなんて話をきくだけでもいやだと思っていたが、去年、お父さんが会社の用事でシドニーへ行き、交通事故にあって、命があぶないという知らせが来て、お母さんが飛行機でオーストラリアへ行ってしまったあと、心配と淋しさのなかで、おばあちゃんとお弟の三人だけで、お父さんが無事で帰るのを待ったこと、そのお父さんも、幸い命が助かって、一月ぶりでお母さんといっしょに帰って来たときは、うれしくて涙が出たこと、そして、この時ぐらい、命の大切さを考えたことはなかったことなどを書いたあと、穴熊のおじいさんのことから、いなかのおじいちゃん（私のこと）を思い出し、おじいちゃん、何でもよく知っていて、私たちに、いろいろなことをしてくれたり、教えてくれるので、いつまでも元気でいてほしいということ……。大抵こんな風なことを書いたのだという。担任の先生の、よい指導のおかげも

あったと思うが、あの幼かった孫娘が、この物語を通して、自分の周辺から、人の生死のことにまで、ものを見る目や、考える心が、幼いながらも、たしかに育ちつつあることに驚きもし、感心もしたのである。話題はわかるが、もう五年ぐらい前の、九月頃のことだったろうか。毎日新聞の短歌・俳句のページに、その頃県立久喜図書館に勤めていた歌人の大西民子さんの作品が五首ほど掲載されていた中に、世の中の悲しみことも知りゆくや涙流して絵本読みみつという短歌があつて、私の心をひいた。その前後の歌から判断して、子ども読書室の風景らしく、母子で赤ずきんちゃんの本を読んでいる歌もあつた。まだ文字も読めない幼児にお母さんが絵本を読んであげること、お母さんが感動するだけではなく、やがては、自分から進んで本を読むうとするよい習慣をつけるのに、大変役に立つことだと思ふ。子どもは大人より、はるかに純粹で、感受性に富んでいる。物心もつかない幼児でも、お母さんの読んであげる絵本に、涙を流すのである。小さい時からよい本を読む習慣をつけてあげるとは、子どもの心の

窓を開いてやり、物語などを通して、人々の喜びや悲しみ、愛することの大切さなど、人間が生きてゆく上で、一番大切なものが、自然に育つてゆくのに、大変役に立つのではなからうか。最近、日本人の活字離れを心配する声をきく。映像文化などの、いちじるしい普及によって、本に頼らなくも、容易に情報を得ることができたり、ドラマなどを見て楽しむことが出来るようになったためだろうか。大人はともかくとして、これから育つてゆく児童や青少年たちが、安易な漫画本や、テレビ番組だけに満足しているのでは困るのである。この頃は、どこの公立図書館でも、どうしたら子どもたちに、よい本を楽しく読んで読んでもらうことができるか、いろいろ工夫もしているし、学校も、学校図書館の充実や、読書指導にも力を入れている所も多いのは結構だが、いまひとつという感もないでもない。要は、家庭の両親や、地域社会も含めて、大人たちが、子どもたちのために、望ましい読書環境をつくってやり、自らも、よい本を読む姿勢を見せるようにつとめることが大切ではなからうか。(前鷲宮町教育長)

(前鷲宮町教育長)

県内図書館めぐり

大宮市立西部図書館

市民待望の大宮市立西部図書館が、大宮市の二番目の図書館として六月二日より一般公開を始めた。大宮市にはすでに東部地区（氷川神社参道脇）に大宮市立図書館があり、充実した図書館活動を行っていましたが、西部地区の文化活動を推進するための拠点として新しい図書館建設が望まれ、その計画が進められていきました。

新しく完成した西部図書館は、運営面においてはコンピュータを導入し、資料の検索・貸出し、返却等の確実で迅速な処理が図られ、また移動図書館も含め貸出しを基本においていた奉仕活動が展開されています。いっぽう施設面においては一階フロアには児童資料室と一般資料室を配置し、児童資料室にはお話し室、絵本コーナー、一般資料室には視聴覚コーナー、レファレンスコーナー、新聞雑誌コーナー、お年寄りのためのシルバークーナー、対面朗読室を設けるなど、多様化・高度化する市

民の利用に十分応えられる機能を備えたものとなっています。西部図書館の開館により、大宮市では東西二カ所に図書館が設置されたことになり、両館による今まで以上のきめこまかいサービスが行われるようになりました。

建物の概要

- 鉄筋コンクリート造三階建
一階（一般資料室、児童資料室、B.M車庫ほか）
二階（視聴覚ホール、事務室、会議室ほか）
三階（機械室）
敷地面積 三、三〇一㎡
建築面積 一、七一五㎡
延面積 三、五二二㎡



所在地 大宮市榑引町二ノ四九九一
電話 〇四八六一六四一四九四六

桶川市立図書館

読みたい本が読める 図書館をめざして

高崎線桶川駅から歩いて七分程のところ、桶川市立図書館が昨年七月にオープンしました。北へ約二百メートルほどのところに、南へ約三百メートルのところに、それぞれ小学校があり、西に高崎線、東に旧中山道が通っていて、桶川市のほぼ中央にあります。一階が図書館で、二・三階は公民館になっています。図書館の面積は五三二㎡ですから、決して大きい図書館ではありませんが、駅西口図書館や川田谷地区の分室、そして移動図書館を含めた、桶川市立図書館全体の本館的機能をもっています。館内に入ると、すぐ左手に児童書コーナー、中央部分に雑誌・新聞などのコーナーがあり、参考図書コーナーと一般書の書架がそれに続いています。

奥の右手は、読書会なども行われる会議室で、事務室は建物の北側になっています。カウンターは事務室と壁ひとつ隔だてたところにあります。室内の壁の色はクリームにし、書架は小麦色に統一し、床は茶色のコ



所在地 桶川市西1-5-21
電話 0487-71-0303

ルクタイルになっています。蔵書は約三万冊、雑誌は五八タイトル、新聞は九タイトル、CDは約四五〇点ほどあります。

桶川市は人口約六万六千人で現在も増加傾向にあり、リクエストにどう応えていくかが今後の大きな課題の一つになっています。検索用の端末機を用意し、利用者は自ら読みたい本があるかどうか、コンピュータを使って、検索できるように実現しつつあります。

移動図書館「むぎぶえ号」が走り始めて十二年、分室、分館とつみかさね、ようやく本館内機能をもつた市立図書館が完成しました。県立図書館をはじめ、他市の図書館の協力を仰ぎながら、読みたい本が読める図書館をめざして行きたいと思

埼玉の文学
埼玉の歌人 ③

杉浦翠子

埼玉の生んだ近代歌人の一人に杉浦翠子がいる。翠子の本名は翠(みどり)。明治十八年五月十七日、川越市大字川越四二七(現・幸町七ノ七)に、父岩崎紀一、母サダの六人兄妹の末っ子として生まれる。二十年、父死亡。二十一年、母死亡、祖母ミキに育てられる。二十二年、次兄桃介、福沢諭吉の二女ふさと結婚福沢家に入籍。二十七年、川越高等小学校(現・川越第一小学校)へ入学。三十一年、卒業する。三十四年、祖母死亡。三十五年、上京。兄桃介のもとに身を寄せ女子美術に通う。のち国語伝習所に通う。次姉である嫁ぎ先、日本画家出淵豊保の家をたびたび訪ね、豊保と同郷の図案画家として大成する杉浦非水と知りあう。三十七年四月七日、非水と結婚する。大正四年、非水の友人北原鉄雄(白秋の弟)の紹介で北原白秋に師事する。五年、齋藤茂吉に師事し「アララギ」に入会する。「アララギ」九月号より、

茂吉選で翠子の歌が登場する。床下にひそかに生へしははこぐき 明るき方に花咲きにけり 六年五月、処女歌集「寒紅葉」を刊行する。十年四月、生家の墓所が東吉見村(現・吉見町)より川越の真行寺に移る。十二月、歌集「藤波」を刊行。十二年十二月、「アララギ」退会。十三年、「香蘭」同人。十四年二月、歌集「みどりの眉」を刊行。昭和二年三月、小説「愛しき歌人の群」を刊行。三年五月、歌論「朝の呼吸」を刊行。八年三月、小説「彼女を破門せよ」を刊行。六月、「香蘭」を退会する。十一月、「短歌至上主義」を創刊、主宰する。翠子は「齋藤茂吉論(一)」を書き、後、十二年七月まで三十八回載せる。十二年三月、歌集「浅間の表情」を刊行する。 天地に己れ寂しと思ふとき浅間は 燃ゆる陽の入りきはを 三月十九日より二十三日、高島屋で非水画、翠子歌の合作展を開催。十三年二月、兄桃介死去。五月、「兄桃介を悼むの歌」を刊行。「短歌至上主義」に、十四年二月より九月、「翠子革新歌誌」を七回、十五年一月より十月、「短歌革新の根本義」を十回(未完)、十六年一月より六月、「新風古しの説」を五回(未完)、十六年六月より十九

年十一月(終刊号)、小説「富強物語」を三十一回(未完)、十八年二月より四月、「白秋先生の芸術面と人間面」を三回、十八年五月より九月、「白秋氏、茂吉氏の歌壇対立」を三回載せる。十九年十一月、戦時歌詩統合に遇い「短歌至上主義」を終刊。終刊号(通巻一二二号)に「浅間の表情」以後の作品を、「七年間の我が足跡」と題して四百二十六首発表する。 二十年八月、「不死鳥」を二十二年三月まで十号発行。二十一年一月、日の黒点——敗戦百首歌集」刊行。二十二年七月、「短歌至上主義」を「短歌至上」と改題して復刊、通巻一二三号を発行する。十一月、「短歌知性論」を「短歌至上」に二十七年六月まで十九回(未完)載せる。二十七年四月、「生命の波動」を刊行。二十八年五月、八月、「齋藤茂吉解剖」を「短歌至上」に載せる。二十九年四月、「純愛三十年茂吉の手紙」を刊行。三十一年十二月、「短歌至上」に「迷悟集」と題し短歌八十一首を発表。三十二年、筑摩書房刊の「現代短歌集」に「百光年集」と題して百六十三首を発表する。三十五年二月十六日、渋谷区伊達町十七の自宅で永眠する。 吉屋信子は「浅間は燃ゆる」で書いている。「昭和三十四年十月号の『短

歌至上」の後記に翠子は「私の近影写真に自歌を肉筆で書いたもの一枚百円也でお送りします。私が死んだらそれを机上にお線香の一本でもあげて下さい」と奇抜な広告をしている。すでに彼女が胃癌であることを医師は良人非水には告げていたが、彼女には秘密だった。——十六日の昼、枕辺に運ばれたサンドイッチを食べようと半身を起した刹那倒れたまま——永遠に帰らぬ人となった。芝白金の松秀寺の藤浪院芳翠歌大姉と彫った墓の下に彼女の遺骨は埋められた」と。 「杉浦翠子の歌と生涯」の金沢邦子は、翠子の秀歌は愛情の歌だと言う。この手紙ひとに頼みがたく出しに 来てポストの底に落つるを聞きたり 岡部一雄は「情熱の歌人杉浦翠子」(「文芸川越」第五号)で、翠子の歌は、主知的態度を前面に押しつけて社会事象に取材するまでになったが、社会批判までには到っていない小市民的感情の歌であると云う。 貧しきは遂に貧しく富みたるはいよいよ富たり明治このかた 結局は吉屋信子の言う、「表は強がってみせて裏はいじらしくさびしいひとだったと思う。その彼女にとつて短歌は悲しき鎮痛剤だったろう……」。 (日本ペンクラブ会員 榎本 了)

東 西 南 北

3月〜6月の 主な催し物

■県立浦和図書館

- 科学文化映画会
日時 3月24日(水) 14時
内容 「地球大紀行―地球誕生―」
「恐竜の時代」「ヒトはどのように進化したか」「健康で美しい人生のために」
日時 5月14日(土) 14時
内容 「世界の婦人たちは……」
「中絶―北と南の女たち―」
日時 6月11日(土) 14時
内容 「生きていく千鶴」
「蝶が飛ぶ・森」
●春の子供映画会
日時 4月16日(土) 14時
内容 「長くつしたのピッピ」
●郷土を知る映画会
日時 4月28日(水) 14時
内容 「はんなり・はんなり―藤―」
「塚越の花まつり―吉田―」
「ナシの花咲くまち」
日時 6月23日(水) 14時
内容 「和紙のふるさと―小川町―」
「人形の町―岩槻―」
「紅花の里―桶川―」
●木曜映画会

■県立熊谷図書館

- 名作映画鑑賞会
日時 5月7日(土) 10時・12時10分・14時
内容 「蜚川」(10時・14時)
「泥の河」(12時10分)
日時 6月4日(土) 10時・14時
内容 「無法松の一生」
●春休み子ども映画会
日時 3月29日(水) 10時・14時
内容 「チリンの鈴」
「トム・ソーヤの冒険」
日時 4月5日(水) 10時・14時
内容 「がんばれたえちゃん」
「恐竜の時代」「豆象武勇伝」
●ビデオコンサート
日時 3月26日(土) 14時
内容 「ドント・ルック・バック」
「ホプ・テイラン」
日時 5月28日(土) 14時
内容 「リリック・ソプラノ」
「キャストリン・バトル」
●ビデオ映画会
日時 4月23日(土) 13時
内容 「十戒」
日時 6月25日(土) 14時
内容 「カイロの紫のバラ」
●映画会
日時 3月18日(金) 15時
内容 「盆栽の心」「雑木林の四季」
日時 4月8日(金) 15時
内容 「健康づくりの運動」ほか

■県立川越図書館

- 映画の集い―地球誕生から―
日時 3月18日(金) 10時・14時
内容 「地球大紀行―地球誕生―」
「恐竜の時代」「ヒトはどのように進化したか」
●春休み子ども映画会
日時 3月29日(水) 10時・14時
内容 「夢の国のボタンノース」
「北極のムーシカミーシカ」
日時 3月30日(水) 10時・14時
内容 「11びきのねことあほうどり」
●名作子ども映画会
日時 4月9日(土) 14時
内容 「長くつしたのピッピ」
●郷土を知る映画会
日時 4月22日(金) 10時・14時
内容 「緑の散歩道」「慈光寺―県内最古の寺―」「武州松山城―戦国の攻防―」「塚越の花まつり―吉田―」
●映画の集い―日本の美―
日時 5月14日(土) 10時・14時
内容 「日本の美術工芸」「漆器づくりの要具」「木曾漆器」

■県立久喜図書館

- 映画会
日時 3月24日(水) 10時・13時半・15時
内容 「がんばれたえちゃん」「大造じいさんとがん」
●スライドのあとでレコード
日時 4月14日(水) 14時
内容 「スライド」清水次郎長伝・次郎長と羽黒の勲功「おけさ子守唄」レコード「落語」「花見の仇討」
●映画会―劇映画―
日時 4月7日(水) 14時
内容 「ガキ大将行進曲」
●映画会―さくらんぼ坊や―
日時 4月21日(水) 10時・14時
内容 「さくらんぼ坊や・1」「2」
日時 4月28日(水) 10時・14時
内容 「さくらんぼ坊や・3」「4」
日時 5月12日(水) 10時・14時
内容 「さくらんぼ坊や・5」「6」
●名画鑑賞会
日時 3月26日(土) 10時・14時
内容 「禁じられた遊び」
日時 4月23日(土) 10時・14時
内容 「蜚川」

全ての催し物は無料です。会場の記入がない場合、いずれも主催館(印)が会場です。詳細は県立各館へおたずねください。

読書グループの紹介

ゆかり会

与野市

早いもので、「ゆかり会」が発足して五年目を迎えようとしている。大戸公民館での古典講座の終了後、講師の町淑子先生を囲んで結成された。会員は現在三十二名、全て女性である。与野市立図書館南分館を会場に、月二回の勉強会を持っているが、出席率のよさは目を見張るばかりで、いつも八割をこえるほどだ。テキストは小学館日本古典文学全集の源氏物語を中心に古典を読む。町先生の講義は学校の勉強と違って、大人の女性が本音で物語を読む楽しい響きがあり、知識欲を満たされる一方、さまざまな人生経験を重ねてきたであろう会員を魅了するものがある。それがゆかり会を成長させて、存続させてゆくキープポイントとなっているように。

去る十二月初旬に京都に旅をして



(代表 添原恵美)

源氏物語ゆかりの地を訪ねた。私達のために自然までが協力してくれ、紅葉のうえに小雪が舞う美しさに出会った。その夜の宿で会員達は興奮して眠れなかったのではあるまいか。それは今も続き、遂に積立貯金にまで発展していった。今年の三月には、いよいよゆかり会の文集を発行する予定である。

会員相互の信頼と理解の輪が、この読書会を、「ゆかり会」の名にふさわしいものにしていてと思う。与野という地域を中心に集った仲間が、今後も御縁を深めて一層の充実をはかってゆきたいと願っている。

ぐるうぶ雪割草

吹上町

六十年の一月のことでした。公民館の講座も、興味あるサークルも、参加したいなと思っても、小さい子を連れては無理なものばかり。子育てをしながらも、何か学べる場がないものかと考えたところ、浮かんだのが読書会。本を読んで意見を交わすことならできる、知恵や刺激を与え合うことが欲しい、そんな思いで子供の幼稚園のお母さん達五、六人で始めることになりました。三十代前半、それぞれ〇歳〜二歳の、二番目、三番目の子供達を連れて、月一回順番に宿となり、別名「お茶飲み会」の読書会がスタートしました。

図書館のお世話になり、人数分本を借りて読んでいますが、いつも悩むのが本選びです。子育て、教育の本や、自分自身を豊かにするためのもの、そして、子育ての基となる夫婦、家庭を考えるもの、また、食生活や環境に関するものなど、身近なものを題材にして選んできました。

乳児を抱えている間は、睡眠もままならぬこと、月に一冊読めればい



いほう、という人もいましたが、しだいにそれと並行して、お互い面白い本を紹介しあって回し読みする余裕も出てきました。「楽しくなければ続かない」そんなことで、現在八人の仲間と、そのチビちゃん達の泣き声あり、笑い声ありの気楽な集まりとなっています。

小さい子がいるからと始めたこの読書会も、子供達が次々と入園し、母離れして行くこれからは、より中味の濃いものにてできるときではないかと思っています (栗野路代)

本のひろば

埼玉の体育とスポーツ

埼玉県の体育・スポーツ活動は、あらゆる地域で幼児から高齢者まで幅広く行われており、その活動を支え、さらに推進するために「ヘルシー埼玉21県民運動」関連事業をはじめとする各種施策が、県や市町村によって進められています。

このような本県の体育・スポーツ事情に関する図書資料等も増加してきており、今回は、先に県立川越図書館で催された資料展「埼玉の体育とスポーツ」より、各種のスポーツ(団体)の歴史をまとめたものを中心に紹介します。

記載は、書名、著編者、出版社(著編者と同じ場合は省略)、出版年、所蔵館の順となっています。
 あゆみ 1983 創立15周年記念事業実行委員会編 熊谷市ソフトボール協会 一九八三 (熊)

- 浦和市野球連盟史 浦和市野球連盟編 一九七八 (川)
- 岡部町の武術 岡部郷土文化会編 一九七七 (熊)
- 小川地方武道史 小川地方武道史編集委員会編 小川地方武道振興会 一九七一 (浦・熊・川)
- 輝くサッカー75年のあゆみ 埼玉サッカー創始75年記念誌 埼玉県サッカー協会編 一九八三 (浦・熊・川・久)
- 霞ヶ関50年史 霞ヶ関カンツリー倶楽部50年史編纂委員会編 霞ヶ関カンツリー倶楽部 一九八〇 (浦・熊・川)
- 川口野球50年史 川口野球50年史編纂委員会編 川口市野球連盟 一九八三 (久)
- 旧制浦和高等学校ラグビー蹴球部史 瑞砂クラブラグビー部史編集委員会編 旧制浦和高等学校ラグビー蹴球部瑞砂クラブ 一九七八 (浦・熊)
- 競走会沿革史 埼玉県モーターボート競走会編 一九七四 (浦・熊・川・久)
- 行田市野球連盟史 1982 行田市野球連盟 一九八二 (浦・熊・川・久)
- 草野球に誇りあれ 大東地区分館対



- 抗野球大会三十周年記念回顧録 三十周年記念事業実行委員会編 川越市大東野球愛好会 一九八六 (浦)
- 熊商野球30年のあしあと(記録編) 熊谷商業高等学校野球部編 熊谷商業高等学校 一九七六 (浦)
- 高校空手道十年のあゆみ 埼玉県高等学校体育連盟空手道部十年のあゆみ編集委員会編 埼玉県高等学校体育連盟空手道部 一九八二 (浦・熊・川・久)
- 埼玉駅伝50年のあゆみ 埼玉県教育委員会 一九八三 (浦・熊・川・久)

- 埼玉県競馬史 埼玉県競馬主催者協議会編 一九六五 (浦)
- 埼玉県剣客列伝 山本邦夫 遊戯社 一九八一 (浦・熊・川・久)
- 埼玉県剣道連盟三十年史 埼玉県剣道連盟記念誌編集委員会編 埼玉県剣道連盟 一九八四 (浦)
- 埼玉県高等学校野球連盟三十年史 埼玉県高等学校野球連盟三十年史編集部編 埼玉県高等学校野球連盟 一九七八 (浦・熊・川・久)
- 埼玉県小型自動車競走史 埼玉県小型自動車競走会編 一九六一 (浦・熊)
- 埼玉県体育史 第1〜3巻 埼玉県体育史編集委員会編 埼玉県体育協会 一九六四〜一九八六 (浦・熊・川・久)
- 埼玉県陸上競技のあゆみ 昭和21年度より昭和50年度までの陸上競技記録 埼玉陸上競技協会 (一九七六) (浦・熊・川)
- 埼玉県立熊谷商業高等学校卓球部史 埼玉県立熊谷商業高等学校卓球部史編集委員会編 埼玉県立熊谷商業高等学校卓球部後援会 一九八一 (浦・熊)
- 埼玉の競輪10年のあゆみ 埼玉県営競技事務所、埼玉県自転車振興会 共編 埼玉県、埼玉県自転車振興

会 一九五九 (浦) 一九八六 (浦・川・久) 京橋堂書店 一九一八 (浦) 幕末関東剣術英名録の研究 渡辺一郎著 渡辺書店 一九六七 (浦・熊) 飯能ホッケークラブ20年のあゆみ 杉田公一編 飯能ホッケークラブ 一九八三 (浦・熊・川・久) 武州の力士 中央夫著 埼玉新聞社 一九七六 (浦・熊・川・久) やりあてできるよ 熊商野球部とともに 三十年 齊藤秀雄著 一九八四 (浦・熊・川・久) 蔵市野球連盟結成40周年記念誌 (蔵市野球連盟事務局 一九八〇) (熊)

編集後記

立春過ぎの寒気を余寒と呼んでいますが、今年の二月の寒さは格別で、一日も早い春の訪れが待たれるこの頃です。本号には、「子どもと読書」と題して前野宮町教育長の田口真一郎先生から、身近な御経験をもとに子ども読書習慣の重要性を披瀝された玉稿をいただき、感謝申し上げます。映像による情報が多くなり、活字離れが心配されている現在の子どもや青少年に対して、効果的な読書指導は関係者にとって大きな課題かと思われまふ。最後に、この一年間原稿を御執筆くださった方や、編集に御協力いただいた県立各図書館の皆様に対して、心からお礼を申し上げます。

会 一九五九 (浦) 一九八六 (浦・川・久) 大東地区ソフトボールクラブ連絡会 創立十周年記念誌 大東地区ソフトボールクラブ連絡会十周年記念事業実行委員会 一九八五 (浦) 高野佐三郎 埼玉県立文化会館編 一九六二 (浦・熊・久) 秩父宮杯自転車30年のあゆみ 埼玉県教育委員会(一九八二) (浦・熊・川・久) 名栗村体育史 名栗村体育史編さん委員会編 名栗村教育委員会 一九八四 (川) 幕末偉人斎藤弥九郎伝 大坪武門著 蔵市野球連盟事務局 一九八〇 (熊)

問 最近、耳にする「調査捕鯨」とはどういうものか？

答 国際捕鯨委員会(IWIC)による商業捕鯨の全面禁止にともない、日本などが捕鯨業の存続をはかるため、科学的調査を目的として鯨を捕獲することを調査捕鯨という。

一九七〇年代に入ると、アメリカ・ヨーロッパを中心とした環境保護や動物愛護運動を背景に、かつての乱獲による鯨資源の絶滅を危惧する声と相まって反捕鯨の運動が急速な高まりをみせてきた。この間、かつての主要捕鯨国も次第に操業を中止し、IWIC加盟国の中で非捕鯨国の数が捕鯨国を上回ることもなり、一九八二年の総会では一九八五年漁期から五年間にわたり商業捕鯨の全面禁止が決定された。こうした厳しい国際環境の下で、日本などは捕鯨業の存続を主張する立場から、国際捕鯨取締条約第八条に明記されている「締約政府は、同政府が

適当と認める数の制限及び他の条件に従って自国民のいずれかが科学的研究のために鯨を捕獲し、殺し、及び処理することを認可する特別許可書をこれに与えることができる」を根拠に、小規模ではあるが南氷洋での捕鯨を存続させている。しかし、これも一九八七年IWIC総会で事実上の中止勧告が決議されている。

なお、シベリヤ・アメリカ・グリーンランドの原住民が行なっている小規模な沿岸捕鯨は、歴史・文化・伝統的観点から住民の生存に不可欠なものとして認められているが、これは生存捕鯨とよばれている。

〈参考文献〉
水産年鑑 昭61・62 水産社
鯨と日本人 柴達彦著 洋泉社
クジラと陰謀 梅崎義人著 ABC出版

おたすねくたさい

問 最近、耳にする「調査捕鯨」とはどういうものか？

答 国際捕鯨委員会(IWIC)による商業捕鯨の全面禁止にともない、日本などが捕鯨業の存続をはかるため、科学的調査を目的として鯨を捕獲することを調査捕鯨という。

一九七〇年代に入ると、アメリカ・ヨーロッパを中心とした環境保護や動物愛護運動を背景に、かつての乱獲による鯨資源の絶滅を危惧する声と相まって

反捕鯨の運動が急速な高まりをみせてきた。この間、かつての主要捕鯨国も次第に操業を中止し、IWIC加盟国の中で非捕鯨国の数が捕鯨国を上回ることもなり、一九八二年の総会では一九八五年漁期から五年間にわたり商業捕鯨の全面禁止が決定された。こうした厳しい国際環境の下で、日本などは捕鯨業の存続を主張する立場から、国際捕鯨取締条約第八条に明記されている「締約政府は、同政府が

適当と認める数の制限及び他の条件に従って自国民のいずれかが科学的研究のために鯨を捕獲し、殺し、及び処理することを認可する特別許可書をこれに与えることができる」を根拠に、小規模ではあるが南氷洋での捕鯨を存続させている。しかし、これも一九八七年IWIC総会で事実上の中止勧告が決議されている。

なお、シベリヤ・アメリカ・グリーンランドの原住民が行な